

## 日本新生児成育医学会 2019年度 第4回理事会議事録

日 時：2019年8月9日（金）14：30～16：30

場 所：東京八重洲ホール 3F 302

出 席：中村友彦（理事長）、茨 聡、河井昌彦、日下 隆、河野由美、長 和俊、中西秀彦、長谷川久弥、  
早川昌弘、飛弾麻里子、福原里恵、細野茂春、水野克己、森岡一朗、山田恭聖、与田仁志、和田和子、  
和田雅樹、渡部晋一（各理事）、猪谷泰史、北島博之（監事）、大木 茂、松本 敦、芳本誠司（各幹事）

欠 席：高橋尚人（理事）

（敬称略）

議 事：

### 1. 理事長報告

#### 1) 年会費請求の件

7月31日現在、全会員2,939名中、名誉・功労会員118名を除く2,821名のうち延べ1,838名（65%）より納入され、代議員費を合わせて18,012,000円の会費納入となった。滞納者へ声をかけるよう出席者に呼びかけられた。

#### 2) 次回理事会の件

SHIROYAMA HOTEL kagoshimaで11月26日（火）15：00～18：00に開催予定である。

#### 3) 通信理事会議決結果報告の件

資料に基づき報告された。

#### 4) メテオから著作権料の支払いがあった件

「メディカルオンライン」の4月～6月までの使用料は1,101円となった。

#### 5) 非医師入会の件

2名が入会された。

#### 6) 日本医学会加盟申請の件

加盟には英文誌を発刊していることが必須とのことで今年は申請を断念した。

#### 7) 新名誉・功労会員推戴の件

例年この時期に候補者をお伝えしているが今年を対象者がいなかった。

#### 8) 2019年度一般社団法人期 会計報告の件

5月28日付で公益法人に認定されたため、2018年10月1日～2019年5月27日の会計報告書がまとめられた。5月28日～9月30日までの公益法人期の会計報告書と共に11月の社員総会で承認を得る予定である。

### 2. 協議事項

#### 第1号議案：2020年9月期予算および事業計画書の件（中村理事長・和田和子理事）

2019年10月1日～2020年9月30日の予算書が理事会で承認された。11月の社員総会で承認を得る予定である。大幅な赤字が予想されるため、経費削減案として、①巻末の定款等の掲載を割愛する、②教育セミナーのあり方を変更する、③理事会を関連学会学術集会の前日に開催する、④理事会をweb会議で行う、などの案が出された。また、年会費を8,000円から12,000円に値上げする際に現在5,000円の代議員費を8,000円にする案が出され、次回社員総会に提案することが承認された。会費の回収率が悪いいため、自動引落としができるよう事務局で検討を行う。

#### 第2号議案：「母子同室実施の留意点」の共同提言の件（中村理事長）

日本産産期・新生児医学会の母子同室WG委員の渡部理事より最終案が提示された。この案では、本文中に注釈が追加されていて、関連団体からの問い合わせや要望に対応した形となっている。チラシに関しても

変更が予定されている。日本での統計学的根拠も記載するべきという意見が出されたが、理事の賛成18名、反対1名で承認された。

第3号議案：健やか親子「HPVワクチンに関するリーフレットに学会名を掲載する件（和田和子理事）

団体名を公益社団法人に修正した上で承認することとなった。

第4号議案：台湾・韓国の講演者招待に関する規則（案）の件（中村理事長）

台湾・韓国・日本の合同学術集会に関する規則（案）について協議されたが、再修正の上、通信理事会で協議することとなった。

第5号議案：人乳由来母乳強化物質の国内使用についての要望書の件（水野理事）

極低出生体重児は母乳だけでは栄養が十分ではないため、人乳由来母乳強化物質が必要となる。ただ、現在利用できる人乳由来の母乳強化物質では不十分なため厚生労働省に要望書案を出すことが提案され、承認された。

第6号議案：医療の標準化検討委員会委員追加の件（中西理事）

委員に埼玉医科大学総合医療センターの石黒秋生先生を委嘱することが承認された。

第7号議案：日本栄養士会から後援依頼があった件（中村理事長）

赤ちゃん防災プロジェクトの後援が承認された。

第8号議案：定款変更の件（中村理事長）

委任状を電子で提出できるように定款の変更案が承認された。公益法人化の際に変更になった箇所と併せて社員総会で承認を頂く予定である。

第9号議案：三菱UFJ銀行オンラインバンキング導入の件（中村理事長）

事務作業を効率化させるためにオンラインバンキング導入について検討され、承認された。

第10号議案：2.5kg未満の動脈管閉存症に対するAMPLATZERピッコロオクルーダーの適正使用に関する手引き（案）（与田理事・和田雅樹理事）

低体重児の動脈管閉存症に対する経カテーテル閉鎖術に使用されるAMPLATZERピッコロオクルーダーが承認・保険収載されるにあたり、手技時の体重が2.5kg未満の患者における経皮的動脈管閉鎖術の適正な使用のために、実施施設および術者の基準と、適応についての手引き案が提示された。基準が厳しいため日本で施行可能な施設は26施設と非常に少数とみられる。学会から委員を推薦することを条件に承認された。

3. 第64回学術集会の件（茨会長）

第64回学術集会は、演題登録締切を1週間延長し、最終的に435題の演題が集まった。第64回学術集会で発表したものをJoint Congressでも登録してよいか協議され、好ましくないという意見が出たため、応募状況を見て検討を行うこととなった。2020年のJoint Congressの開催は台湾で5月に予定されている。

第64回学術集会会期中の会長招宴と社員総会は以下の通りである。

会長招宴：11月26日（火）19：00～21：00 2階 クリスタルガーデン

社員総会：11月27日（水）16：30～18：00 2階 クリスタルガーデンB

4. 第65回学術集会の件（長 会長）

オリンピックの前の週である2020年7月18日（土）～20日（月）にロイトン札幌、札幌市教育文化会館にて開催予定である。同時開催の看護学会は7月18日（土）～19日（日）に開催予定である。

5. 第66回学術集会の件（長谷川会長）

2021年11月11日（木）～11月13日（土）にパシフィコ横浜にて開催予定である。同時開催の新生児看護学会は11月12日（金）～11月13日（土）に行う。

6. 各種委員会報告

1) 感染対策予防接種委員会（森岡委員長）

日本小児科学会の分科会が共同で作成・公表された「日本におけるパリビズマブの使用に関するコンセンサ

「ガイドライン」は、英文化に向けて作業が進められている。このガイドラインは、小児科学会ホームページや学会誌では、コンパクトにまとめたものが掲載されているため、日本小児呼吸器学会と合同で、早産児およびCLDに関する詳細版を作成したいと考えている。感染対策予防接種委員会の業務として作成し、理事会に諮ったのち公表することが承認された。医療の標準化検討委員会とも協力する予定である。

2) 社会保険委員会 (和田雅樹委員長)

- 6月26日に第1回内保連総会が開催され、以下の項目が提案・審議された。
  1. 2020年度診療報酬改定提案(プレネイタル・カウンセリング加算):7月29日に厚労省のヒアリングを受審。
  2. 「説明と同意」委員会:「標準的医療説明の手順書」の作成が進められており、本学会に関連した内容としては、重症先天性疾患の診療、人工呼吸器装着、輸血および血漿分画製剤の使用がある。
  3. 遠隔医療関連委員会の新設:当学会も加盟申請済み。
- 内保連年会費:200,000円/年(予算申請済)
- 第20回三保連合同シンポジウム(主催:外科系学会社会保険委員会連合)が11月5日(火)17:30~20:00にフクラシア東京ステーションにて行われる。

3) 診療委員会 (与田委員長)

- 平成28~30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(難治性疾患等政策研究事業)「小児慢性特定疾病対策の推進に寄与する実践的基盤提供にむけた研究」の総合研究報告書「新生児科領域疾患についての検討」を作成した(研究分担者:長和俊、与田仁志)。
- 日本小児科学会移行支援委員会で「疾患別 移行支援ガイド」を小児慢性特定疾病に相当する疾患について作成する。当学会は該当疾患なしであった。
- 重症先天性心疾患スクリーニングに関するアンケート結果については、日本小児科学会と日本小児循環器学会で中野委員が口演発表を行う。また、産婦人科医会への報告(寄稿)と周産期・新生児医学会雑誌へ投稿予定である。NCPR2020年版記載について交渉予定である。
- 学会将来構想委員会に協力する形で「働き方改革」に対応するための資料作成に参画していて、医療供給体制に関するアンケート結果を参考資料として提出した。小児科学会誌には網塚委員から寄稿予定である。

4) 医療安全委員会 (渡部委員長)

第64回新生児成育医学会(鹿児島)で、医療安全委員会セミナー(90分)を開催し、小児科学会専門医制度専門医共通講習(医療安全)を申請予定である。座長は、網塚貴介先生(青森県立中央病院成育科)と猪谷泰史先生(神奈川県立小児医療センター)で演題と演者は以下の通りである。

1. NICUにおける母乳管理—皆が苦しむ誤投与を減らすために—/長谷川久弥(東京女子医科大学東医療センター新生児科)
2. NICUでのスマホ使用—医用電子機器への影響とマナーの問題—/佐藤和夫(国立病院機構九州医療センター小児科)
3. 純正でない?! 未承認! ここに気を付けよう!/渡部晋一(倉敷中央病院総合周産期母子医療センター)
4. 総合討論

教育講演(60分)については「医療ガスの基礎と安全管理」と題して松井 晃先生(神奈川県立こども医療センター医療安全推進室)にご講演いただく予定である。

5) 倫理委員会 (福原委員)

- 2019年7月13日(土)に松本にて倫理委員会を開催した。第64回学術集会時の11月27日(水)13:00~16:00に倫理ワークショップを開催予定である。具体的模擬事例を2事例提示し、グループごとに家族を含めた多職種で話し合う。
- 第63回学術集会時のWS報告が学会誌に掲載され、委員会委員および当日参加者にPDFで送付した。

家族の方へはお礼状とともに別刷を送付予定である。

6) 利益相反委員会（山田委員長）

利益相反に該当する案件はなかった。

7) 教育委員会（早川委員長）

- 第6回医学生・研修医向けNICU入門セミナーは2019年5月18日（土）～19日（日）に、戸津五月委員（東京女子医科大学母子総合医療センター新生児医学科）を世話人として、ホテルクラシア晴海（東京都）にて行った。参加者は受講生46名、チューター・講師・スタッフが30名であった。
- 第23回教育セミナーは2019年8月29日（木）～31日（土）に松本敦委員（岩手医科大学小児科）を世話人として、ホテル森の風鶯宿（岩手県岩手郡雫石町）にて行う予定である。
- 第64回日本新生児成育医学会学術集会（鹿児島）にて、教育委員会企画プログラム（内容は昨年同様に学会発表をブラッシュアップさせて論文にする）、教育セミナーワークショップ優秀賞発表を行う予定である。

8) 薬事委員会（飛弾委員長）

- 国立成育医療研究センター「妊娠と薬情報センター」が行う「医療用医薬品の添付文書における妊婦禁忌の解除を希望する薬剤調査」について、日本小児科学会薬事委員会経由で同調査への協力依頼があった。SAFE-DI（薬剤情報検索サイト）から「妊婦禁忌」記載のある薬品（先発品）を約580件抽出し、BriggsのDrugs in Pregnancy and Lactation 11th edの記載内容と照会した。今回は「授乳禁忌薬」ではなく「妊婦禁忌薬」が対象であったため、キャリアオーバーの患者さんを担当されている他の分科会と異なり、個々の薬剤の必要性の判断が当委員会では困難という結論になり、該当薬無しとして返答した。

9) 医療の質向上委員会（長委員長）

- 稀有疾患（病態）サーベイランス事業の調査中の疾患（2019年7月25日現在）は「新生児血球貪食性リンパ組織球症（HLH）および新生児ヘモクロマトーシス」が36件、「先天性トキソプラズマ感染症」が11件、「サイトメガロウイルス（CMV）関連敗血症様症候群」が9件、「新生児偽性低アルドステロン症」が5件であった。「症例なし」を登録した施設は213施設で、「症例なし」を含む登録施設の保険認可NICU病床数は2,462床であった。
- フォローアップ事業は、平成30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 厚生労働科学特別研究事業「超低出生体重児の成人期に達するまでの慢性疾患群合併の実態把握と支援方策の確立に向けた研究（H30-特別-指定-017）」班（河野班）について報告書を提出済みで第64回学術集会において発表予定である。

10) 男女共同参画推進委員会（河野委員長）

- 女性医師の働き方に関するアンケートを学会将来構想委員会の「働き方改革に関するアンケート調査」に追加して実施した。
- 第65回日本新生児成育医学会学術集会（札幌）で、委員会主催ワークショップを開催予定で、内容については委員会で検討を行う。

11) 災害対策委員会（茨委員長）

第64回日本新生児成育医学会学術集会の最終日（11月29日14時～）鹿児島市立病院多目的ホールにて、災害医療研修会の開催を予定している。

12) 学会将来構想委員会（代：与田理事）

2019年7月15日（月）に診療委員会と合同の拡大委員会を開催した。新生児医療連絡会と共同で、現在の新生児医療提供体制についての全国調査を行うために、調査内容の検討を行った。調査内容が確定した後、調査研究審査委員会に審議を依頼し、承認後に調査を開始する予定である。次回の委員会は、第64回学術集委会期中に開催予定である。

13) 調査研究審査委員会（高橋委員長）

特になし

14) 医療の標準化委員会 (中西委員長)

特になし

15) 国際渉外委員会 (日下委員長)

- Joint Congress 開催当日のスケジュール、Joint Congress ホームページ開設、国内発表者等について報告された。
- 2019年5月23日(木)～25日(土) かがわ国際会議場にて開催された IPOKRATES について収支が報告された。

16) 学会誌編集委員会 (河井委員長)

学会誌 31-2号を6月15日に発刊した。投稿原稿の受付を電子化した。今のところ特に大きなトラブルはない。

17) 総務委員会 (和田和子委員長)

特になし

18) 学術委員会 (長谷川委員長)

学術奨励賞受賞者に齋藤純一先生(横浜市立大学医学部循環制御医学[第一生理学]の「Tissue-type plasminogen activator contributes to remodeling of the rat ductus arteriosus. PLoS One. 2018 Jan 5; 13(1): e0190871. doi: 10.1371/journal.pone.0190871. eCollection 2018.」が選出された。第64回学術集会および Joint Congress にて講演予定である。

19) 産科医療補償制度対応委員会 (細野委員長)

特になし

20) 広報委員会 (水野委員長)

学会ホームページ訪問者数は増えているが、もっと多くしていきたい。

21) その他

Pediatric Academic Society Meeting 2020におけるシンポジウムについて、早川理事が応募したテーマが選ばれ、日本小児科学会からの提案として応募することとなった。

第3回 Fostering Leadership Program については引き続き公募を行っている。